

令和8年度

# 第1回 進路保護者会のしおり



令和8年6月19日(金)

3年 組 番 氏名

---

船橋市立行田中学校

## 第1回 進路保護者会資料 目次

1. はじめに	1
2. 本校の進路指導について	1
3. 保護者の方へのお願い	2
4. 進路選択の考え方	3
5. 進路相談について	5
6. 学力判定の考え方	6
7. 上級学校	
i 高等学校について	7
高等学校の選び方	9
学校説明会について	11
ii 高校の入学者選抜方法と留意点	12~18
公立関係資料	19~24
私立高校について	25~27
ii 高等学校以外の進路選択	27
3年生に努力してほしいこと	28



# 1.はじめに

生徒は、1・2年生での様々な学習や生活、体験活動を通して、「生き方」について学んできました。

今年度は、これらの体験をもとにいよいよ一人ひとりの夢の実現に向けて、一步を踏み出す時期となりました。生徒一人ひとりが自分自身を見つめ、自己の特性を理解し、自分の将来の可能性を探りながら、自己決定していくこととなります。それは、まさに自立への第一歩です。行田中学校では、進路指導を中学校生活の集大成として位置づけ、一人ひとりが目的意識をもって、主体的に自分の進路を選択し、決定していくことを誠心誠意支援していきます。

行田中学校では以下の4点を基本として進路指導を推進してまいります。

## (1) 「中学校卒業後の方向性を選択する」指導から「生き方」指導

生徒が、中学校卒業後すぐの行き先だけでなく、将来の生き方について多様な選択が可能であることを理解し、自己の進路を探索することを指導・支援します。

## (2) 「進学可能な学校の選択」から「進学したい学校の選択」への指導

生徒が、将来の生き方に照らして、上級学校で学ぶ意義を理解し、目的を持って、進学したい学校を選択するよう指導・支援します。

## (3) 「合格可能性に基づく」指導から「生徒の意欲や努力を重視する」指導

生徒が、具体的な志望校を選択するに当たっては、日ごろの学習の成果等に基づいて助言し、志望の実現に向けて努力する過程を指導・支援します。

## (4) 「大人の選択決定」から「生徒の選択決定」への指導

生徒が、進学志望校の選択を含め、将来の生き方を自己の意志で選択し、自分自身で責任を負うことができるよう指導・支援します。

# 2.本校の進路指導について

## = 本校の進路指導方針 =

- (1) 将来の夢や希望をもとに卒業後の進路や生涯の生き方を考えさせ、自己の適性や能力を加味して、生徒自らが主体的に進路を選択できるような進路指導を行います。
- (2) 将来の夢や希望を実現するための計画や活動内容を考えさせ、努力を継続できるような指導や支援を行います。
- (3) 主体的、計画的に学ぼうとする態度を育てるとともに、基礎学力の定着に重点を置いた学習指導を行います。

## = 重点的な取り組み =

### (1) 生徒が自ら考え、判断することを重視した指導

進路選択の主人公は生徒自身です。保護者・教員の助言やその他の情報も大いに参考になります。しかし、情報は多岐にわたり、この時期は不安になりがちです。よって、周りの影響を受けやすく、自分自身の考えをはっきりもてない場合もあります。自分自身の選択の条件をしっかりと考え、自分の目と足で確かめることを中心に、自分で判断させていきたいと考えています。

### (2) 生徒が進路を考えるための適切な情報提供

高校に関するガイドブックだけでなく、進学に必要な各種資料・入試問題集などを各教室に設置し、閲覧できるようにしています。学校説明会や体験入学の案内など、学校に届いたものについては、各教室に配付するとともに、クラスルームを活用し、生徒に提示しています。保護者の皆さまも、ご家庭でお子様と一緒に確認いただきたいです。学習についても、総合的な学習の時間や学級活動の中で進路学習を実施し、学習計画の立て方の支援など、担任を中心とし、学年一丸となって指導して参ります。

### (3) 生徒が落ち着いて学習や進路選択に取り組める環境づくり

学校は、生徒たちが集団生活をするところです。個人個人の小さなことでもお互いにより影響を与え、互いに向上することもあれば、時には全体へ悪影響を及ぼすこともあります。落ち着いた学校生活が送れるように、自分たちの生活態度や授業態度、友達との人間関係を振り返り、良い状態をつくっていくよう指導して参ります。落ち着いた生活環境は、学習の成果につながります。

### (4) 将来設計の相談と助言の充実

進路とは、将来にわたる生き方のことですが、この時期は、どうしても受験だけに目が向きがちになります。しかし、高校に入学することだけが目的ではありません。1・2年生で行ってきたキャリア学習を基に、中学校卒業後の生活を想像し、夢と将来のことを考えた進路決定となるようにアドバイスをして参ります。

## 3.保護者の方へのお願い

### (1) 進路決定は本人の決意

進路選択の過程で、「家族で一緒に考える」という姿勢はとても大切です。しかし、あくまで最終決定は「生徒本人が、自分で決める」ということを大切にさせてください。

### (2) 正しい情報収集

お子様に適した進路かどうかを客観的に判断していただきたいと思います。そのためにも、高校説明会や体験授業への参加をお子様にお勧めすると共に、保護者の方も積極的に説明会等に参加して、実際の学校の施設や在校生の様子を見たり、先生や在校生の話を聞いたりする機会をもっていたいただければ幸いです。

### (3) 子どもの気持ちを理解してのアドバイス

思うように成績が伸びなかったり、学習習慣が身につかなかったり、見ていて歯がゆい思いをされることもあるかと思います。「勉強しろ」「頑張れ」と激励したり、叱ったり怒ったりしたくなることもあるかと思います。そのような時も、お子様の様子をよく見ていただき、時期に合った励ましを考えてください。進路希望の決定をしなければならない時期になっても、過大に期待をかけ過ぎると大きな負担になることがあります。なぜやる気が起きないのか、なぜ集中できないのかを見極めて、的確にアドバイスをしてください。

#### (4) 大きな心で、長い目で

子どもと一緒に考えてくれることはとても大切です。しかし、受験し、高校に入学し、高校生活を送るのはお子様です。受験が近づいてくると、誰でも、不安や緊張から、イライラしたり、甘えたり、毎日いろいろな態度をとることがあります。そのような時に、保護者の方が一緒に動揺していると子どもも落ち着きません。また、プレッシャーが大きくなることもあるでしょう。お子様が悩んでいるときや動揺したり、緊張したりしているときこそ、頼りになるのは家族です。その甘えを認めることは認め、叱るべきところは叱る、けじめをつけていくことをお願いします。

親は、子どもが受験生であろうがなかろうが、2年生までと変わらない姿勢でいるのだ、ということをお子様には知らせること、伝えていくことが大切です。また、保護者の皆様も進路選択の経験者です。ご自分の経験を是非聞かせてあげてください。

- ・ 規則正しく、生活リズムを整え、よい体調で学校生活に臨ませてください。  
(起床、睡眠、食事、家庭学習、帰宅時間などへの配慮)
- ・ 普段から身だしなみを整えるよう声をかけてください。(清潔感のある服装、頭髪)
- ・ 毎日の学校での活動に一生懸命取り組み、仲間を大切にしよう声をかけてください。
- ・ あきらめないでがんばろうと思う気持ちをもち続けられるよう励ましてください。

義務教育を修了していく生徒たちは、来年度、「社会」に出ていきます。ですので、社会に生きる一人の人間として、

挨拶・返事・身だしなみ・言葉遣い といったマナーは身につけていってほしいと思います。

充実した毎日の生活の積み重ねが、生徒自身を成長させます。何より日々の学校生活を大切に過ごしてほしいと思います。

## 4.進路選択の考え方

**「進路を選ぶ」のは生徒**です。自分の進路を選択する・決定するということは一時的にできるものではありません。長い人生の中で一生続くものといえるでしょう。しかし、節目節目で決断を迫られることもまた事実です。中学校卒業という節目においても、最後の選択がなされるまでには、長期にわたる援助や協力が必要になります。

- ・本人の考え、希望、適性、能力
  - ・保護者の考え方
  - ・受け入れ側の条件
- これらが、できるだけ一致していることが大切です。

### 親子の会話・対話のなかで

#### ① お子様と話し合う内容

- ・将来の希望や能力、適性などについて
- ・学習成績について
- ・希望する学校の特色や諸条件について
- ・家庭の経済状況について

#### ② 親として心がけていただきたいこと

- ・親の考えを押し付けないでください
- ・家庭の現状や諸条件を知らせてください
- ・情報を正確に把握してください
- ・精神的な安定を与えてください
- ・適性や能力を的確につかんでください
- ・「勉強しろ」ではなく、悩みなどを聴いてあげてください
- ・将来の人生設計に適合した進路を考えさせてください

(1) 中学生の進路: 中学校卒業後の進路は大きく5つに分けることができます。

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① 高等学校の全日制の課程や高等専門学校、特別支援学校等に進学する。</li><li>② 専修学校、職業訓練校で職業の訓練を受ける。</li><li>③ 企業などに就職して、高等学校定時制課程や通信制課程に進学する。</li><li>④ 企業などに就職して、職業に専念する。</li><li>⑤ 家業や家事に従事する。</li></ol> |
|---|

以上のうち、どれかを選ぶこととなります。しかし、高等学校の全日制課程の中には普通科、英語科、農業科、工業科、商業科、衛生看護科、国際教養科、音楽科、理数科、体育科など多くの学科があります。その他にも多種多様な学科があり自己の希望や適性を十分考慮のうえ、最も適切な進路を選ぶことが大切です。

(2) 進路決定の指針

A: 将来設計

- ① 将来どんな人生を送りたいのか。
- ② 現段階で目指す夢・職業と関連させる。
- ③ 目的意識や目標を明確にして将来を計画する。

B: 自己理解(性格や行動、学習方法や成績、健康面や運動能力、趣味や特技、職業に関する興味、関心、保護者の願いなどを考える。)

① 学力や個性を知り、適性を考えた進路をめざす。

進路決定後に「自分とは合わない」という理由の進路変更が増えています。

お子さん自身が、十分に自己理解を深めた上で、自分の個性や特徴と、めざす進路先との関連を理解しておいてください。

② 家庭の条件を考える。

世間の風評に迷うことなく、子どもに過度に期待をかけ過ぎず、保護者が子どもの希望を理解し、子どもが保護者の期待を理解できることが望ましいことです。

また、経済的な問題では奨学金の利用などがあげられます。最近では、高等学校等就学支援金制度や給付型の奨学金制度も増えてきています。

③ 体力、健康面、通学や通勤の所要時間を考慮する。

入学(就職)後の毎日の生活を、より具体的に想像してみるのが大切です。3年間の高校生活や社会人としての責任をしっかりと全うすることが目標です。

C: 情報収集

・高校案内やホームページを活用し、進学から就職など、進路に関する様々な情報や、幅広い知識を身につけることが大切です。先生や先輩から話を聞くことや、実際に進路希望先を訪ねてみることも有効です。

※就職をお考えの方は、早めに学校までご連絡ください。

・希望する高校への訪問(見学)は、必ず行ってください。その際は、保護者の方も可能な限り参加することが望ましいと考えます。

※説明会の予定変更は往々にしてあります。ホームページ等で確認をするようにしてください。

## D:生徒の決断

### ① 進路希望先の選択と決定は本人の意思と責任が理想的

・進路希望先の選択と決定は、最終的には本人の意思を尊重すべきです。

### ② 気持ちの準備

・就職、進学決定がゴールではありません。決定後は、意欲をもって新しい場で努力をしていく気持ちの準備をしておくことが大切です。

## 5. 進路相談について

今月の中旬からは、生徒・担任による二者面談を適宜実施し、7月には生徒・保護者・担任による三者面談を実施し、10月下旬の三者面談を経て、進路希望先を決定していきます。面談であわてないように以下のことに留意して、進路選択を進めていきましょう。

### (1) 三者面談の内容

・目標の進路先、志望校の決定    ・進路希望実現に向けての課題の確認    ・選択理由の確認  
・入試スケジュールの確認    ・入試制度利用（特に推薦）の有無について    ・保護者の方の意見 等々

### (2) 三者面談で困ること

★**生徒と保護者の意見の不一致** 「保護者の願いが強すぎる時/子ども自身の希望がはっきりしないとき」

★**生徒自身が志望校などに関して明確に答えられないとき**

⇒「みんながそうするから。」「わからない。」「本当かどうか知らないけど、〇〇さんが言っていたから。」「親が無理やり決めてしまったから。」 等々

### (3) 三者面談までに完了しておいてほしいこと

① 具体的な方針、方向性を決めておく。(進学か就職か)

② **進学を希望する場合には、具体的な志望校を**決めておく。

(学習成績も関わってくるので、第3希望程度まで考えておく。経済面から国公立か私立かなどの方向性も)

③ 志望校についてよく調べておく(10月までに、志望校の見学や説明会の参加もすすめておく)

④ 志望校の「どこに惹かれ」「入学後何をがんばり」「どんな学校生活を送りたいのか」を自分の言葉で説明できるようにしておく。(これらは入試の際、面接でも必ず聞かれます)

⑤ **家庭内での結論を出しておく。(本人の希望と保護者の考えの一致点と相違点を把握する)**

⑥ 希望実現のために、「何をすべきなのか」「課題をどう克服していくか」など、今後の見通しをもつこと。

⑦ 単願推薦や併願推薦など**入試制度の利用の有無**をはっきりと伝えること。(学習成績の面や普段の生活面も関わってきますから、希望通りになるとは限りませんが意向を伝えてください)

⑧ 3年生の生徒個々の成績や進路希望などの情報は全て集約され、全校規模の会議で、生徒一人ひとり全員の進路が検討されます。

## 6.学力判定の考え方

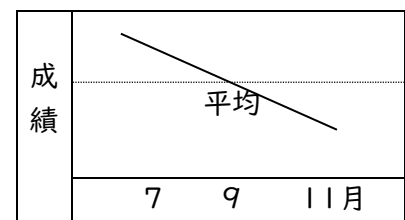
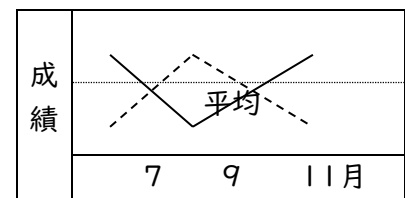
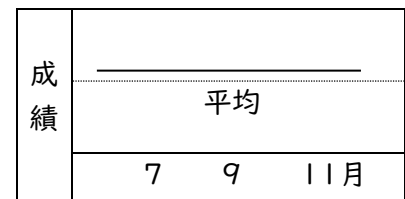
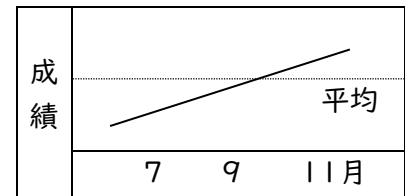
### (1) 実力テストなどの成績の推移の見方

- ① 最もよかった時の結果を実力と考えるのは妥当ではありません。過去に1回だけ、とてもよかったときがあった。これは、よい条件が重なってそうなったと考え、それだけの実力があるとは思えません。
- ② 最も悪かった時の結果を実力と考えるのも正しいとは言えません。これは悪い条件が重なってそうなったと考えられるので、これで実力と考えるのは厳しいと言えます。
- ③ 6月の実力テストよりも、9~11月の結果を重く見るほうが適切です。後半のテストは、どの教科もほとんど中学校での全範囲から出題されています。6月の出題範囲は1,2年の範囲が多く、範囲を限定しているため、このころの成績は、実力判定の時には重視しないのが一般的です。
- ④ 総合点だけで見ず、各教科の得点についても検討するとよいと思います。それによって得意な教科、不得意な教科がわかり、受験勉強の参考になります。

### (2) 成績推移のタイプ

基本的な4つのタイプを示します。

- ① **上昇型**: 大変好ましい型で実力判定は後半の良いところで押さえてよいでしょう。学習に対する興味と意欲が益々上がっている状態です。
- ② **安定型**: 実力がコンスタントで、判定は見たとおりです。上昇型になることを期待します。現状に満足して、向上心が失われると危険です。
- ③ **波形型**: 実力の判定のしにくい型で、悪いところで判定するのが妥当です。精神面、また、体調面での不安定感が感じられます。理解できていない単元があることも考えられます。
- ④ **下降型**: 心配な型で、実力判定は最新の結果で押さえるのがよいと思われます。精神的な安定や学習方法の改善が必要です。放っておくとまだ下がる可能性があります。早めに原因を確認し、解決する必要があります。



### (3) 定期試験と実力テストの結果の差

範囲の狭いテストは良いけれども、範囲の広い場合は悪いという人がいます。本当の実力は範囲の広いテストで判断したほうがよいでしょう。地道な努力を続けて、自信をつけていきましょう。

## 7. 上級学校 i 高等学校について

### (1) 上級学校の種類・種別について

- 種類 高等学校、高等専門学校、専修学校高等課程、各種学校
- 設置者による区分 国立、公立(県立・市立)、私立
- 課程による区分 全日制、単位制、通信制、定時制
- 学科やコース 普通、総合、理数、外国語、工業、家政、商業、体育、看護・・・
- その他 共学、男子校、女子校、大学付属・・・

### (2) 公立(国立)・私立の違い:教育方針

- ・公立は、各都道府県の教育方針に基づいた教育を行っています。学科や学力による教育内容の差はあるものの、同じ学科で同レベルの学校では、学校ごとの教育方針の違いは私立ほどにはありません。最近では工夫されたカリキュラムを実施している学校もあります。
- ・国立は、設置されているのが一部の都府県に限られます。国立大学の付属校として、教育に関する研究・実験に協力することを主な目的としています。教育実験校という要素も強く、個性的な教育を実践しています。学校ごとに教育方針は違っていますが、全体的に自主性を尊重する学校が多く、特別な受験指導や国立大学への入学優遇制度も基本的にはありません。
- ・私立は、創立者の「建学の精神」「教育理念」に基づき、学校ごとに独自の教育を行っています。そのため、大学の付属校や宗教系の学校など様々なタイプの学校があり、教育方針や指導方法などは学校による違いがかなりあります。

### (3) 公立(国立)・私立の違い:入試方法

- ・公立の場合、各学校とも都道府県ごとに決められた統一のルールのもとで入試を行い、千葉県では国語・数学・英語・理科・社会の5教科の学力検査が全校共通です。その他に学校設定検査(面接や作文など)が行われます。
- ・国立は公立と同様に5教科による試験が一般的ですが、試験問題は学校独自の作成で、難易度も高いものがこれまで出題されています。
- ・私立は、国語・数学・英語の3教科による入試の高校が多く、試験問題も各校がそれぞれ独自に作成するため、出題傾向や問題の難易度も学校ごとに大きな差が見られます。

### (4) 全日制・定時制・通信制の違い

- ・全日制:中学校と同じように、朝から5時間~8時間程度の授業を行う課程。
- ・定時制:夜間またはその他特別の時間帯において授業を行う課程。最近では、朝・昼・夜に授業を行う三部制の定時制もあります。\*1
- ・通信制:通信による教育を行う課程。修業年限は3年以上とされています。基本的に自主学習によりレポート等を提出し、卒業に必要な単位を取得する必要があります。また、スクーリングと呼ばれる、登校による指導がある場合もあります。\*2

\*1 公立(千葉県)の「三部制による定時制高校」

生浜高校や松戸南高校 午前部・午後部・夜間部の三部制

\*2 公立(千葉県)の通信制高校は、千葉県立千葉大宮高等学校(千葉市)

## (5) 単位制高校

中学校のように1学年、2学年という学年ごとに決められた科目を学習していくという形ではなく、大学のように入学から卒業までに決められた単位を修得すれば卒業が認められるという形をとっているのが単位制高校です。この単位制高校のメリットは、選択科目の履修が多いことから、生徒一人ひとりが自分の興味や関心、将来の進路に応じた科目をいろいろと選択して、自分の時間割を作れることです。

## (5) 学科による違い

高校では、学科によって学習内容も大きく異なり、卒業後の進路もずいぶん違ってきます。したがって、志望校を選ぶ場合まず学科の内容や特色を知って、高校ではどの学科で学習したいのかを考えることが必要になってきます。高校の学科は、大きく分けると4つのタイプがあります。

### **普通科**:5教科を中心に学習し、大学進学を目指す

国語・数学・英語・社会・理科といった普通科目を中心にバランスよく学習し、大学・短大をめざす学科で、現在の高校生の約8割が通っています。受験に備え、高校2年か高校3年から文系と理系に分かれて学習をする学校も多いようです。最近では、普通科の中に英語コースや理数コースなど、一部の教科を重点的に学習できる「コース」や「類型」を設置する学校も増えてきています。コースや類型は高校入学時から分かれている場合も多く、学習内容は専門学科に近いと言えます。英語系や理数系の他にも、芸術系、体育系、福祉系、情報系などのコースや類型もあるようです。

### **専門学科(普通科系)**:専門科目を多く学習し得意分野を伸ばす

普通科目を学びながら、学科に関連した科目を重点的に学習する学科です。例えば、英語科では英語、理数科では数学と理科の授業時数が多く、専門性も高いので、大学進学後の学習につながるケースも多いようです。学科に関連した科目を基礎からじっくりと学習できるので、専門性を生かした大学の学部に進みたい人には、特に向いています。他に、国際系、芸術系、体育系などの学科があります。

### **専門学科(職業系)**:職業にすぐに役立つ技術や知識を身につける

高校卒業後に就職することを前提として、職業に関する専門科目を多く学習する学科。普通科科目も学習しますが、全体の3~4割程度は専門科目の学習で、実習が多いのも授業の特色です。専門の技術や知識を習得するので、卒業後にすぐに社会で活躍することができ、在学中に様々な資格を取得できるため就職にも有利です。職業系の専門学科には、商業系、工業系、水産系、被服・家庭系、福祉系、看護系、農業・園芸系などの学科があります。また最近では、それぞれの枠を超えた情報科学科や環境工業科など新しい時代に対応した学科もいろいろと出てきています。

### **総合学科**:普通科や専門学科の枠を超えた学習ができる

普通科と専門学科の枠を超えた第3の学科と言われ、近年全国で増えている学科です。履修科目の約半数が選択科目となり、普通科目から専門科目まで幅広い選択科目の中から、生徒一人ひとりが自分の学びたい科目を選んで独自の時間割を作ることができるのが特徴です。そのため、進学・就職のどちらの進路にも対応した学習を進めることが可能です。ただし、高校1年では普通科目を中心に共通科目を履修し、「産業社会と人間」という必修科目を通じて、生徒に将来の進路を考えさせ、高校2年からの科目選択に生かすカリキュラムが組まれています。

# 高等学校の選び方

## (1) 学校選択のポイント

① やりたい学習ができる高校か？卒業後の進路が将来の希望と合っているか？ 高等学校は、中学校と違い様々な学科やコースがあります。各学校・学科によって、勉強する内容がかなり異なります。したがって、進学したい高校を決めるには、まず本人が高校でどんな勉強がしたいのかを確認し、それに適した高校を選んでいかななくてはなりません。また、どんな勉強をしていくかは、将来の進路希望とも関係してくるはずで、そのため、将来どうしていきたいかを考えることがとても重要です。将来の進路の希望や勉強の目標を実現してくれる学校かどうかは、各高校の過去2～3年分の進路先を確認するとよいでしょう。

② 取り組みたい部活動や行事があるか？ 学校生活を楽しいものにするためにも、部活動や学校行事は大切な要素のひとつです。高校で野球をやりたいと考えていたのに、野球部がなかったり、海外留学を試みたいという希望をもっているのに、そうした制度がなかった、ということでは残念です。部活動や学校行事などでやりたいことがある場合には、それらが実際に行われているのかもチェックする必要があります。

③ 教育方針や校風が合っているか？ それぞれ学校には、教育方針や校風というものがあり、各学校によって雰囲気も異なります。例えば、自主性を尊重する教育方針の学校と、しつけを重視する教育方針の学校では、校風が異なります。教育方針や校風が合わないと、学校になかなかなじめず、楽しい学校生活を送ることができません。お子さんの性格に合った教育方針や校風の学校を選ぶことが重要です。

④ 自分の学力に合っている学校か？ どんなに入りたいと思う学校でも、本人の学力より高すぎると合格は難しいでしょう。運良く合格しても、授業についていくのが大変です。逆に、学力的に余裕がありすぎる学校に入学した場合には、遊んでしまったり授業の内容が物足りなかったりと、学力を伸ばす大切な機会を失うことになりかねません。もちろん学力だけで決めてしまうことは問題です。しかし、入りたい学校の学力レベルを目標に、学習に取り組むことも、大切な要素のひとつには違いありません。

⑤ 通学時間や通学方法はどうなっているか？ 3年間無理なく通学することができるか、交通手段に不便はないかも大切なチェックポイントです。部活動を重視する場合には、活動場所がどこにあるのかも調べておきましょう。3年間通うための体力とも相談していくことが大切です。

⑥ 学費などの費用はどうなっているか？ 入学金や授業料など、いくらかかるのかも大切なチェック項目です。公立と私立の一番の違いが出るのもこの部分です。それ以外にも、PTA会費・生徒会費・教材費・校外学習費・学用品代・制服代といったものも必要になってきます。さらに、忘れてはならないのが交通費です。遠方の高校に通うことになれば定期代もかかります。逆に、近場の高校に通えば必要なくなるケースもでてきます。初年度だけにかかる費用と毎年(毎月)かかる費用の総額で比較しましょう。\*授業料無償化

## (2) 学校の内容を調べるために

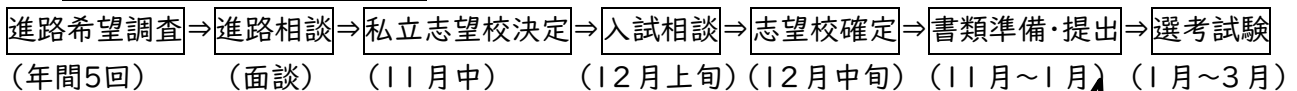
- ・学校見学への参加(夏休み、学校行事等) ・体験入学への参加(各高校で実施:進路だより、HP)
- ・学校説明会への参加(各高校で実施:進路だより、HP) ・市販の学校案内
- ・学校独自の案内・パンフレット・入試要項等 ・その学校の在校生や卒業生の話聞く

※ 以上のように、学校選択のポイントはいくつか考えられます。やはり十分な事前調査が必要になってきます。とはいえ案内だけ見ても実感がわきませんし、資料には、一般的にその学校の「良い面」だけが載っていることも少なくありません。それぞれの学校を知るには、実際に学校見学や説明会に出向き、肌でその場の雰囲気をつかむことです。通学している生徒の様子・通学上の不都合はないかなど、実際に確認することは大切です。体験することで学習に身が入る例も多いようです。逆に、イメージの違いから志望校を変更するケースもよくあることです。

## (3) 決定の時期と内容

- ・10月19日(月)~30日(金)の三者面談(水土日祝日は除く)までには、志望校を絞り込んでおいていただきたいと思います。
- ・原則として、心理的な不安を取り除くためにも合格の可能性の高い併願校を、最低1校受けておくことが望ましいです。
- ・入試日程は、入学手続き金延納措置の有無を考えながら、できるだけ生徒の精神的肉体的な負担を軽くしてあげることが大切です。

## (4) 進路決定までの大まかな流れ



私立志望校の決定は11月です!!

公立受検校の決定は1月です!!

# 学校説明会(学校見学・体験入学)について

高等学校では、中学生や保護者の方に学校をよく知ってもらおうと、学校説明会、学校見学会、体験入学、オープンスクールなど、学校をPRする機会をたくさん設けています。なかでも学校説明会は、教育内容から入試関連のことまで、受験生が知りたいさまざまな情報を一度に得られる貴重なチャンスです。受験する可能性のある学校は必ず参加したいものです。その際には、下調べをして疑問点をはっきりさせて望むことがコツになります。また、個別相談コーナーなども大いに利用して、確認したいことは、積極的に情報を集めてください。

(1) 目的 お子様が、自分の志望する高校を、自分の目で実際に見ることで

**①高校の雰囲気 ②施設 ③周りの環境 ④交通手段 ⑤通学時間**などが確認でき、高校選択の重要な資料となります。さらに、

**⑥校内の印象、⑦高校の先生方の表情や態度、⑧在校生の様子(登下校)**などをチェックすると、真の高校の姿が見えてきます。自分の直感的な印象を大切にしましょう。

(2) 参加にあたり

(ア)設定された日時に各自が自由に参加できる場合、(イ)事前に行田中学校で参加人数を集約し期日までに報告しなければならない場合、(ウ)各自個人で申し込む場合、と大きく3つの場合があります。近年は(ア)、(ウ)が多くなっています。学校に案内が来ているものについてはクラスルームを通じて随時連絡をしていきますので、参加方法と合わせて必ず確認してください。特に、(イ)の「事前に報告しなければならない場合」には人数の関係上、期日を過ぎての参加は認めてもらえないこともあります。「友達が行くから自分も行く」という安易な発想でなく、自分の意思による参加が基本です。また、こうした機会でなくとも、見学したい高校に生徒・保護者から連絡を入れることで対応してくれる高校もあるようです。必ず、事前に連絡を入れて、高校側からの指示に従ってください。はっきりした対応がない場合でも、行ってみることで(たとえ外からでも)雰囲気はつかめるものです。さらに、一部の私立高校では、第1志望や単願併願を問わず推薦受験の場合に、生徒もしくは保護者同伴による説明会参加を義務づけているところもありますので、十分に注意してください。

(3) 留意事項

- ・中学生の服装(制服)、頭髪、持ち物、言葉遣いなどを、高校の先生はよく見えています。ここでは、ぜひ良い印象を与えたいものです。一人の印象が、行田中学校全体のイメージを作ります。「友達についていく」という安易な発想からでは、気持ちや態度の面でも真剣さは伝わりません。
- ・参加名簿が用意されている学校では、必ず名前を記入してくるようにしましょう。
- ・個別相談時には、口頭の約束はトラブルの素です。対応した教職員の名前を必ず記録しておきましょう。

**【服装】 制服**

**【持ち物(例)】** 上履き、外靴を入れる袋、筆記用具、メモ帳、生徒手帳、**成績ファイル**、交通費

\*高校までの距離に関わらず、**移動手段としては「公共交通機関または徒歩」**で参加しましょう。間違っても自転車で行くことは控えてください。

## ii 高校の入学者選抜方法と留意点

### (1) 高校入試の一般的な選抜方法

- ①入学試験の合格得点(公立:5教科、私立:3教科~5教科)
  - ・1教科でも基準点を下回ると、総合で高得点でも不合格になる場合があります。
- ②中学校全教科の内申点
  - ・技能教科(音楽、美術、保健体育、技術・家庭)の内申点も重要視されます。
- ③中学生活の様子 \*公立と私立、また私立校でも学校ごとによってかなり異なります。
  - ・欠席や遅刻の数(具体的な数字で基準を設けている学校もあります)
  - ・特別活動の記録(係、委員会活動、部活動、特技など)
- ④面接は多くの高校で実施されています。
- ⑤推薦入試では、作文や小論文、実技試験を取り入れる学校もあります。

### (2) 受験の仕方(例)

- ①公立高校が第1希望の場合 →合格できる見込みの高い私立高校を1校受験する。
- ②私立高校が第1希望の場合 →合格できる見込みの高い他の私立高校も1校受験する。  
※単願推薦の場合は、他の私立高校を受験できない場合があります。

### (3) 受験の希望順位、制度による名称

「**単願推薦**」「**専願推薦**」:高校側の設定した推薦基準に達した状態で、入試相談を経て受験すること。

「**第一希望推薦**」:高校側の設定した推薦基準に達した者が出願することができ、入試相談のないもの。

その他にも「単願優遇」「第一希望優遇」など、「優遇」という表記をしている私立高校もあります。この「優遇」については、上記の「単願推薦・専願推薦」と全く同じ意味での「単願優遇」「専願優遇」と用いられている場合と、試験の点数に単なる加点としての「優遇」として用いられている場合があります。

また、合格したら必ず入学する「単願・専願・第一希望」だけでなく、第二希望以下の「併願」においても、「併願推薦」「併願優遇」といった表記があります。各私立高校の入試要項をよく読み、且つ説明会に参加し、その高校が設けている制度名と制度を確認する必要があります。

★行田中学校では、入試相談を要する「A 推薦/単願推薦/専願」を  
入試相談を要しない出願基準のみ

第二希望以下で入試相談を要する「B 推薦/併願推薦/推薦併願」を

入試相談をするための基準に満たないが、自己を推薦することを

第一希望から全ての志望順位で入試相談を要しない受験を

[A 推薦]

[第一希望推薦]

[B推薦]

[C推薦]

[フリー] と表現します。

### (4) 推薦制度について

#### ①高等学校が推薦を受け入れる条件

- ア その学校に入学する本人の意志が明確であること。(志望動機が明白・適切)
- イ その学校の教育方針に保護者の理解と協力が得られること。
- ウ 本人が3年間確実に健全な学校生活を送ることを中学校が推薦できること。
- エ 受験校が提示した学習成績等の条件を満たしていること。 ※高校ごとにかかなり異なります。

② 実施方法(千葉県及び東京都内私立高校の一般的な推薦入試方法)

推薦条件	・その私立高校入学を <b>第一志望</b> とする者で、 <b>出身中学校の校長が推薦する者</b> 。 ・各私立高校が定める推薦基準(※)に達している者。
推薦入試	・面接、実技試験(適性検査)、作文など。

※**推薦基準は各高校が定めます**。なお、概ね次のような条件が必要です。

ア 学習成績が当該私立高校が定める基準を満たしていること。

成績は3科、5教ないし9科の通知表の成績を基準とする高校が多く、時期は「3年次の1学期又は前期」のものとする場合や、「公立評定」という3年次の4~12月のトータル成績といった場合があります。

例:A高校(普通科)の場合 単願推薦:5教科評定15または9教科27、併願推薦:5教科16

また、英語検定・漢字検定・数学検定等(特に3級/準2級以上)を加味する高校もあります。

イ 欠席や遅刻、早退の回数が基準内であること。

高校により、推薦入試の方法が異なりますので、志望校の推薦については募集要項でよくご確認の上、担任にご相談ください。またすべての私立高校で設定されているわけではありません。

ウ **第二希望や第三希望での、「併願受験」としての推薦試験を実施する学校もあります。**

※ 中学校長の推薦を受ける目安

- その高校に**入学を強く希望し、動機が明確**であること
- 推薦を受ける高校の基準に合う**と思われる生徒であること
- 保護者の理解と協力が得られること
- 行田中学校として推薦するにふさわしい人物であること**

(5) 留意点

- ①公立高校(1校)と私立高校(複数校)の両方を受検(受験)することは可能です。
- ②**公立高校(県立・市立)は、受検日が同じですので、1校しか受けることができません**。合格者も定員人数です。(合格しても入学を辞退すると、定員割れや他の受検生の学習の機会を奪うこととなります。そのため、受検の必要がなくなった場合には『志願取消届』の提出など手続きが必要になります。
- ③私立高校は、受験日が重ならない限りは何校でも受験することはできます。しかし、連日の受験は精神的・肉体的にも負担が大きく、十分な実力が発揮できなくなることも少なくありません。県内・都内ともに試験日が集中する時期があります。十分に確認をし、無理のない計画をたててください。
- ④**私立高校を単願推薦**で受験する場合は、「1校のみの受験」ということもありますが、**「公立高校1校のみ受検」は多くありません。公立高校にしか入学の意思がなくても、公立入試前に、自分で選んだ私立高校を、「出願して受験して合格」という経験をしておくと、心の支えにもなります。もしもに備えることが万全の準備になります。**
- ⑤推薦等で合格が決定後の**入学辞退は、高等学校との信頼関係を失うこととなりますので、できません**。そのためにも慎重に進路希望を決定してください。
- ⑥受験する学校については、必ず自分で調べ、実際に自分の目で確認することを忘れないようにしてください。自分で選び、生徒自身で決定させるプロセスが大切です。
- ⑦各種検定・資格・外部活動実績等は、入試相談時や出願時に参考資料とされる場合があります。これらを調査書に記載する場合、**証明書や賞状の複写を10月初旬に提出**していただきます。以後の更新については、**私立用なら11月中、公立用であれば12月末**までであれば調査書に記載できる可能性がありますので、学級担任にご相談ください。 -13-

## (6) 入試相談

私立高校には、独自に設定した「A推薦(主に単願推薦)」「B推薦(主に併願推薦)」「C推薦(主に自己推薦)」などと呼ばれる、優遇制度があります。これらの制度を利用して受験するには、在籍している中学校長の人物推薦が大前提としてあり、且つ本人の成績(前期評定もしくは公立評定:4月から12月までの評定)、特別活動、欠席日数などの高校側が設定した条件を満たしている必要があります。中学校長の推薦とは、全校規模の進路指導会議において慎重かつ公平に審議され、最終的に学校長が判断するものです。推薦するに足る人物と判断されたものについては、

・「第一希望推薦」:推薦型を選択して出願することができる。

・「単願推薦、専願推薦、併願推薦」:入試相談にもっていくことができる。 となります。

そして、この「入試相談」とは、優遇制度で出願できるかどうかを、例年12月15日頃に、中学校の職員が高校側に「相談」に行き、制度利用の可否を相談してきます。これを「入試相談」といいます。ここで、高校側に受付してもらうことができれば、その生徒は、「A推薦(主に単願推薦)」「B推薦(主に併願推薦)」などの制度を利用して、その私立高校に出願・受験をすることができるということになります。ですので、残念ながら「受付」られなかった場合は、その優遇制度利用できないということになります。

「A推薦(主に単願推薦)」「B推薦(主に併願推薦)」で受験した生徒は、成績等があらかじめ高校側に認められているので、本番の入試で少々失点した場合(体調悪化や緊張など)でも、ある程度配慮してもらえという利点があります。しかし、「入試相談」を行った場合には、必ずその高校に出願しなければならないなど、他の高校への受験が制約される場合もあります。また、12月1日から入試相談の電話・ネット予約を行う関係で、入試相談を経て受験していくという意思が、11月の時点ではっきりとしていなければ、「入試相談」にもっていくことができません。

なお、「入試相談」を利用した推薦は、原則として、生徒一人につき、1校のみです。私立高校によっては、成績のほか、3年間の出席状況が入試相談基準になる学校もあり、それらが説明会やHPで事前に公表されることがあります。そのような情報を、積極的に収集するとともに、自身の状況と照らし合わせ、不安があるようであれば、説明会や個別相談などで、高校側と可能な限り相談をしてください。

また、入試相談制度のある私立高等学校を、入試相談を通さない一般入試(フリー受験)する場合でも、私立高校側から入試相談用紙に当該生徒の成績や出欠の状況の記入を求められる場合があり、その際は入試相談用紙に記載をします。

☆三者面談の際には、「〇〇高校をB推薦での受験を考えていますが…」のように、自分が希望している高校と、その高校の受験方法(制度)を学級担任に伝えてください。

★希望する私立高校の推薦基準に達していなくとも、本人/保護者と高校側で個別相談を入念に行い、入試相談にもってくるように中学校の先生に伝えてください、という場合ももっていくことは可能です。

また、希望する高校の基準に達せずとも、本人と保護者の強い希望があれば、入試相談にかけることは可能です。しかし、その相談後は、推薦が受け付けられない可能性が十二分に考えられます。そうした場合には、「〇〇高校の相談で受け付けられなかった場合には、▲▲高校の推薦を希望します。」というよう「次の手」を準備しておく必要があります。

★公立高校入試では、令和7年度入試より調査書から出欠席の記録欄がなくなりましたが、「私立高校入試」特に入試相談では、3年次のみならず3年間の出欠席の記録が重要なことが考えられます。

# 出願・試験・合否の判定・発表・手続きについて

公立の出願・試験等は統一の形ですが、私立高校は学校ごとで異なります。ここでは、一般的なことを説明します。詳細は、必ず高校の入試要項をご確認ください。

## (1) WEB 出願の流れ

高校 HP→出願サイト→メールアドレス登録(ユーザー登録→出願情報入力→支払い方法選択(コンビニ、金融機関、クレジットカード、オンライン決済等)→受験料納入(支払完了メール受信→受験票印刷)→受験票に写真貼り付け→試験当日受験票持参

※調査書、推薦書等必要書類は郵送。

※自宅にWEB環境がない家庭は、高校のPCで手続きさせてもらえる場合もあります。

※近年では、ほとんどの私立高校でWEB出願が導入され、その分、高校へ足を運ぶ機会が減りました。

高校見学等に積極的に参加し、実際に足を運ぶ経験を大事にしましょう。

※調査書や推薦書は中学校が作成しますが、高校指定の様式が必要となる場合、各家庭で様式をご準備いただきます。時期が来ましたら、生徒を通じて提出を求める予定です。

## (2) 試験について \*入試選抜方法の欄にも記載

学力検査(国数英の3教科の学校が多いですが、中には2教科、4教科や公立と同様に5教科を実施する学校もあります)のほか、作文、実技、面接等がある場合もあります。学力試験の成績・面接の結果・その他の検査の結果・調査書の審査結果等に基づき、総合的に合否が判定されます。それらの比重は、高校により様々です。

## (3) 発表

それぞれの高校で掲示またはWEBの方法で行われます。学校によっては、郵送や手渡しになるところもあります。

## (4) 手続き

合格していても、入学手続きを指定期日内に行わなければ合格が取り消されてしまうので注意が必要です。また、合格後、数日以内に公立高校の発表まで待つための延納手続きや延納金を支払わなければならない場合もあります。

\*延納金の有無、手続きの期日などは高校ごとで大分異なりますので、詳細を確実に要項等で確認しておきましょう。

## 受験校パターン例と注意点

ここでは、①公立と私立のどちらが第1希望なのか ②私立の入試制度の利用の有無、利用の仕方 の2点を中心に、下記のようなパターンに分けて考えてみましょう。進路希望調査記入も、これらのパターンを参考にしてください。

《公立高校が第1希望の場合》

パターン1

第1希望:公立  
第2希望:私立のB推薦を利用した受験

パターン2

第1希望:公立  
第2希望:私立のフリー受験  
第3希望:私立のB推薦を利用した受験  
※B推薦の条件が、第3希望以下でも良い場合

パターン3

第1希望:公立  
第2希望~:私立をフリーで数校受験する  
※日程が重ならない限り、何校でも受験可能ですが、体力的、精神的、金銭的な負担も十分に考慮した上で選択してください。  
※可能であれば、最後の希望校に私立のB推薦を利用し、安心して公立高校受験に臨みたいところです。

パターン4

第1希望:公立  
※公立のみ受験し、私立は受験しないパターン。公立高校本検査は1回しかありませんので、この場合、**受験校は学力的に余裕をもって選ぶ必要**があります。万が一、不合格であった場合、**公立高校二次募集はありますが、これは、定時制及び、本検査で定員を満たしていない全日制高校のみ**が実施するものです。

《私立高校が第1希望の場合》

パターン5

第1希望:私立のA推薦制度  
※A推薦での受験が決まっても、不合格の場合に出願する第2希望の公立や他の私立を考えておくようにしてください。

パターン6

第1希望:私立のC推薦制度・第1希望優遇・入試相談を行わない推薦制度  
第2希望:公立や他の私立の受験を考えておく必要があります。  
→第2希望の私立についてはB推薦受験をすることも考えられますが、私立が第1希望の場合だとB推薦制度を受け付けてもらえない高校もあります。

## 注意点

(1) 公立高等学校選抜及び私立高校の推薦(入試相談の約束)を十分に理解した上で、**必ず決まりを守って下さい!!**条件や約束を守らないと合格が取り消されたり、学校間のトラブルとなり、今後の進路指導に支障を来します。

(2) 学費・諸経費等の見通しを持って下さい。

市内では過去に、第一希望の公立が不合格だったため、第二希望に併願推薦で受験した私立に進学するしかないのに、私立への進学が決定してから、やはり学費が支払えないという理由で、合格を取り消し(辞退)したケースがありました。

また、志望順位が上位の高校の合否がわからない状況だったにもかかわらず、延納手続きをしなかったケースもありました。高校によっては、「入試相談を受け付けた者は、出願まではしなければならない」というところもあります。\*1私立高校の出願料・延納金等もよくご確認ください。

\*1 例 第一希望 A 高校 1月17日(県内私立フリー受験)→18日合格

第二希望 B 高校 1月23日(都内私立併願推薦)←出願期間が19日までだった場合、  
要項に「入試相談を経たものは出願まではしなければならない」とあれば進学はせずとも、受験料も振り込んだ上での出願までは必ずしなくてはなりません。

(3) 出願から手続きまでの流れの確認

私立高校を2校以上受験する場合、以下のように出願、入試、発表、手続きの日を確認しなければなりません。

ア 入試日の重なり...2校同時に受験できません。

イ 発表と入試日...重なる場合があります。発表を保護者が見に行く事になります。

ウ 発表と出願日...下位希望校は上位希望校の発表を見てから出願ができます。

...発表より出願締め切りが早い場合は全てに願書提出となります。

エ 第2希望、第3希望の手続き

公立高校の発表まで、何も手続きが必要なく待つ学校なのか、延納手続き金を納入しなければならない学校なのか等を十分に確認してください。

(4) 県外公立高校受検について

受検に関する時期や手続きの調査、必要書類の取り寄せ等は本人及び保護者で進めていただくことになります。中学校が作成する書類等があれば、「何を、いつまでに、どのように(手書きか、データ入力か等)を明確にして時間に余裕をもって学級担任に申し出てください。

受検する都道府県によっては、出願書類に「千葉県教育委員会発行の千葉県公立高校を受検しない旨の証明書」を求められる場合があります。発行するための申請書類は中学校を経由しなくてはならず、また、数週間程度かかる場合もあります。時間に余裕をもって担任に申し出てください。

\*県外への転居予定があり、他県の私立高校受験を考えている際も、なるべく早く学級担任にご相談ください。都道府県や学校によっては、千葉県様式の調査書が使用できず、所定の様式の場合もあることや、手続き期間が千葉県と異なることがあるためです。

(5) 高校側から推薦等をもちかけられた場合

- ・学校外のクラブチームに所属しており、クラブを通じて進路先を探す。
- ・高校側からクラブに推薦の話が入る。
- ・部活動に所属し、高校側から推薦の話が入る。

上記に当てはまる場合は、以下について十分ご確認ください。

- ① 三者面談で上記の可能性あることを担任に伝えてください。
- ② 高校見学等に行く場合は、高校側の顧問に伝えるだけでなく、学級担任にも申し出てください。  
また、見学参加のために必要な手続きがあれば、他の生徒と同じ手順を踏みます。
- ③ クラブを通したとしても、受験の際には必ず中学校からの書類作成や手続きが必要になるので、先方の高校から中学校に連絡をもらえるようクラブに依頼してください。その後は、高校側も手続きは理解していますので、クラブを介さず高校と中学校とのやりとりになります。
- ④ **中学校での生活態度・学習態度も推薦の対象であることを**ご理解ください。
- ⑤ 生徒本人・家庭・クラブだけで話を進めるということはせず、学級担任に必ず話を通す。部活動に所属していれば顧問にも同様に話を通してください。
- ⑥ 「推薦」とは高校が生徒を推薦するのではなく、中学校長が高校に生徒を推薦する入試制度です。高校側から推薦をもちかけられ、本人と家庭がそれを望んでも、全校規模の進路会議や、中学校長が許可しなければ推薦は成立しません。また、成績次第で推薦話自体がなくなる、当日の入試の出来次第で不合格となるということもあります。安易に「スポーツ(文化活動)だけで高校に行けるから勉強しなくても良いや。」という姿勢でいる生徒がもしいたら、ご家庭でもお話してください。「推薦」「応援」は自分でするものでも頼んでもらうものでもありません。周囲から自然と「推薦したい」、「応援したい」と言ってもらえることです。  
[キャリア教育]として行う進路指導ですので、「高校に入学すること」だけをゴールにした指導はしません。その高校できちんとした学業、学校生活ができる生徒として送り出したいものです。

## 千葉県公立高等学校の通学区域

### 1. 県立高等学校の通学区域

県立高等学校の全日制普通科には、志願に関して次のような学区制限があり、その学区内の高等学校を志願しなければなりません。

- (1) 志願者及び保護者の居住する市町村が属し、かつ志願者の在籍あるいは卒業した中学校の所在する市町村が属する学区
- (2) (1)に掲げる学区に隣接する学区

\*女子校（千葉女子高校及び木更津東高校）の2校、専門学科、総合学科、定時制及び通信制の課程には志願に関する学区制限はありません。県内全域から志願することができます。

#### 各市町村の学区

第1学区	千葉市
第2学区	市川市 船橋市 松戸市 習志野市 八千代市 浦安市
第3学区	野田市 柏市 流山市 我孫子市 鎌ヶ谷市
第4学区	成田市 佐倉市 四街道市 八街市 印西市 白井市 富里市 印旛郡内全町
第5学区	銚子市 香取市 匝瑳市 旭市 香取郡内全町
第6学区	東金市 山武市 大網白里市 山武郡内全町
第7学区	茂原市 勝浦市 いすみ市 長生郡内全町村 夷隅郡内全町
第8学区	館山市 鴨川市 南房総市 鋸南町
第9学区	木更津市 市原市 君津市 富津市 袖ヶ浦市

#### 志願者の受験可能学区（全日制普通科）

居住学区	高 校 所 在 学 区								
	第1学区	第2学区	第3学区	第4学区	第5学区	第6学区	第7学区	第8学区	第9学区
第1学区	●	●		●		●	●		●
第2学区	●	●	●	●					
第3学区		●	●	●					
第4学区	●	●	●	●	●	●			
第5学区				●	●	●			
第6学区	●			●	●	●	●		
第7学区	●					●	●	●	●
第8学区							●	●	●
第9学区	●						●	●	●

### 2. 市立高等学校の通学区域

市立高等学校の志願については、下記の学区制限があります。

千葉市立千葉	普通	千葉市内のみ可能（本人及び保護者が千葉市内に居住する者）
	理数	県内全域から可能
千葉市立稲毛	普通	千葉市立稲毛国際中等教育学校に移行の為、令和7年度入試より募集停止
	国際教養	
習志野市立習志野	普通	第1・第2・第3・第4学区の市町（県立高校と同じ扱い）
	商業	県内全域
船橋市立船橋	普通	第1・第2・第3・第4学区の市町（県立高校と同じ）
	商業	県内全域
	体育	県内全域
松戸市立松戸	普通	第1・第2・第3・第4学区の市町（県立高校と同じ）
	国際人文	県内全域
柏市立柏	普通	第2・第3・第4学区の市町（県立高校と同じ）
	スポーツ科学	県内全域
銚子市立銚子	普通・理数 <small>（くくり募集）</small>	第4・第5・第6学区の市町（県立高校と同じ）

## 令和9年度(来春) 千葉県公立高等学校 選抜日程

<p>I. 一般入学者選抜・特別入学者選抜・地域連携アクティブスクールの入学者選抜及び通信制の課程の一期入学者選抜</p> <p style="text-align: right;">出願方法—インターネットによる出願</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">志願者情報登録及び検査料納付</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     令和9年                      1月12日(火)～2月1日(月)                 </div>
↓	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">出願書類提出期間</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     2月2日(火)・3日(水)・4日(木)                 </div>
↓	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">志願又は希望の変更</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     2月9日(火)・10日(水)                 </div>
↓	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">学力検査等の実施</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     2月16日(火)・17日(水)                 </div>
↓	<small>* 特別入学者選抜(連携型高等学校を除く)及び通信制の課程の一期入学者選抜は2月16日(火)のみ実施</small>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">追検査の受付</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     2月19日(金)・2月22日(月)                 </div>
↓	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">追検査の実施</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     2月25日(木)                 </div>
↓	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">入学許可候補者(合格者)の発表</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     3月2日(火)                 </div>
-----	
<p>II. 第2次募集(地域連携アクティブスクールを含む)及び通信制の課程の二期入学者選抜</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">志願者情報登録及び検査料納付</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     3月2日(火)～3月4日(木)                 </div>
↓	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">出願書類提出期日</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     3月5日(金)                 </div>
↓	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">志願又は希望の変更</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     3月8日(月)                 </div>
↓	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">検査の実施</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     3月10日(水)                 </div>
↓	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">入学許可候補者(合格者)の発表</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     3月12日(金)                 </div>

### 学区別／専門学科設置高等学校

	学科名	学区別設置高等学校 *印はくくり募集								
		第1学区	第2学区	第3学区	第4学区	第5学区	第6学区	第7学区	第8学区	第9学区
総合	総合学科	幕張総合	小金		八街	匝瑳		大原	安房拓心	君津青葉
理数	理数	市立千葉	船橋	柏	佐倉	佐原	*成東	*長生		木更津
						*市立銚子				
外国語系学科	国際教養		松戸国際				東金			
	国際人文		市立松戸							
	国際				成田国際					
	国際コミュニケーション			流山おおたかの森						
商業系学科	商業	*千葉商業	市立習志野	*流山		*銚子商業	*東金商業	*一宮商業	館山総合	*君津商業
			市立船橋							
	情報処理	*千葉商業		*流山	成田西陵	*銚子商業	*東金商業	*一宮商業		*君津商業
					下総					
	情報理数			柏の葉						
情報コミュニケーション									袖ヶ浦	
工業系学科	工業								館山総合	
	理数工学	千葉工業								
	機械	京葉工業	市川工業	*清水						
	電子機械	千葉工業				東総工業		茂原樟陽		
	自動車				下総					
	電気	千葉工業	市川工業	*清水		東総工業		茂原樟陽		
	電子工業	京葉工業								
	情報技術	千葉工業				東総工業				
	設備システム	京葉工業								
	環境化学			*清水				茂原樟陽		
	工業化学	千葉工業								
	建築		市川工業							
	建設	京葉工業				東総工業				
インテリア		市川工業								
家政系	家政	千葉女子	八千代						館山総合	木更津東
	調理国際				佐倉東					
	服飾デザイン				佐倉東					
芸術系	芸術		松戸							
看護系	看護	幕張総合								
	福祉教養		松戸向陽							
体育系学科	体育		八千代							
			市立船橋							
	スポーツ科学			市立柏						
農業系学科	農業						大網	茂原樟陽		
	園芸		薬園台	流山	成田西陵	多古				君津市原
					下総	旭農業				
	土木造園				成田西陵			茂原樟陽		
	畜産					旭農業				
	食品科学			清水	成田西陵	旭農業	大網	茂原樟陽		
生物工学						大網				
水産系	海洋					銚子商業		館山総合		

令和9年4月1日より

東総工業 電気科・情報技術科 → 電気情報科、電子機械科 → 機械科、建設科 → 変更なし  
 茂原樟陽 電子機械科・電気科・環境化学科 → 機械テクノロジー科・電気テクノロジー科

公立関係資料4

普通科内に設置されているコース

公立高校の普通科では、1年次においては共通科目を履修しますが、2年次からは生徒の興味や適性、進路希望に応じてコース制をとっている高校があります。文系コース・理系コースを除き次のようなコースが設置されています。

【国際に関するコース】			
学区	学校	コース	備考
1	柏井	国際コミュニケーション	英語の授業を少人数で実施し、ALTとの授業も。中国語や韓国語も学習できます。
2	市川東	英語	3年次より開設。高大連携プログラム（神田外語大学、麗澤大学等）を実施。
9	君津	国際教養	英語学習に重点を置き、「英語理解」と「時事英語」などの専門科目も学びます。
【工業に関するコース】			
9	天羽	工業基礎	ものづくりに関する基礎・基本を学び、地域産業で活躍できる人材を育成します。
9	姉崎	ものづくり	普通科の課程を基本的に履修しながら、工業の基礎も学ぶことができます。
【商業に関するコース】			
2	船橋豊富	情報	各種資格取得に挑戦しつつ、より高度な情報活用能力を身に付けることができます。
3	沼南	情報ビジネス	実社会に即対応できる専門的な知識と技術を習得します。
3	我孫子東	ビジネス	各種商業検定の取得を目指し、就職・進学の間方が可能なカリキュラムで学びます。
3	関宿	情報ビジネス	商業系の科目の学びに重点を置き、資格を取得して就職したい生徒を応援します。
5	多古	ビジネス	商業や情報関連の科目を学び、簿記やビジネス文書検定などの資格取得を目標とします。
6	九十九里	ビジネス基礎	コース制授業を実施。ビジネス文書実務検定等の資格取得を目指します。
9	天羽	実務	ビジネス科目や情報処理について学び、産業社会で生かせる能力を身につけます。
9	市原	商業	簿記、情報処理等の科目を学ぶ他、課題研究にも取り組みます。
【家庭に関するコース】			
6	九十九里	生活デザイン（服飾、食物）	家庭科技術検定（被服製作・食物調理）等の資格取得を目指します。
9	天羽	生活	栄養・調理・ファッション・保育・幼児教育・福祉などについて学びます。
【福祉に関するコース】			
1	犢橋	福祉	令和2年度設置。介護職員初任者研修の終了を目指します。
2	船橋豊富	福祉	福祉に関する専門的な知識はもちろん、介護技術の習得も目指しています。
2	松戸向陽	福祉	第3年次に、福祉の専門科目を10単位履修できます。
3	我孫子東	福祉	地域の方々の協力により、介護や福祉の考え方について学びます。
4	佐倉西	福祉	2年生で週4時間、3年生で週6時間を福祉の授業にあてます。
5	小見川	福祉	介護分野だけでなく、障害者福祉、児童福祉など広い分野について学びます。
6	松尾	福祉	将来、社会福祉で活躍したい人向けのコースです。
9	市原	福祉	卒業までに介護職員初任者研修を修了することができます。
【芸術・スポーツに関するコース】			
2	津田沼	音楽	2・3年生で各6時間の音楽授業を履修し、専門的知識や技術を高めます。
3	沼南高柳	芸術	音楽・美術・工芸・書道から1科目選択。2年次週4時間、3年次6時間の授業。
3	流山南	スポーツ健康	体育に関する科目を多く学習します。スキー実習があります。
3	沼南	健康スポーツ	実習や体験授業が充実。フードデザインの授業も実施しています。
【人材育成等を目指したコース】			
1	千葉女子	教員基礎	「せんせい」という仕事を知り、教育者になるための素養を高めることができます。
2	国府台	教員基礎	学習指導体験や夏季休業中の集中講座を通して、教職について学びます。
3	我孫子	教員基礎	教育に関する科目を設け、体験を重視した学習や外部講師による講座を実施します。
6	成東	教員基礎	普通科・理数科どちらでも受講可能。2年次は集中講義、3年次は選択授業での受講。
7	大多喜	教員基礎	保育所・小学校等での体験的な活動を通して学びます。放課後等を活用し、講座形式で実施します。
8	安房	教員基礎	2年次から「教員基礎」を履修し、3年次には「課題研究」に取り組みます。
9	君津	教員基礎	教育に関する授業や実習を行い、教員を目指すための体系的な学びを展開します。
1	土気	保育基礎	将来子どもと関わる職業につきたい、保育の基礎を学び、自分の将来を明確にするコースです。
2	市川南	保育基礎	保育士や幼稚園教諭を目指す人対象のコースで、保育の基礎を学びます。
3	鎌ヶ谷西	保育基礎	「保育基礎」、「保育実践」など、2年間で4科目・9単位の学びを実践。
4	四街道北	保育基礎	令和2年度設置。実習等を通して保育士等としての基礎的素養を身に付けます。
3	東葛飾	医歯薬	高い倫理性と豊かな人間性、医療系大学進学のための確かな学力を育成します。
4	成田北	医療	医療分野についての学習を通して、医療従事者として必要な資質の育成を目指します。
5	小見川	医療	香取おみがわ医療センター及び千葉科学大学との連携により、幅広い医療分野の教育を実現。
8	長狭	医療・福祉	地域の病院や福祉施設などと連携して、医療・福祉分野で活躍する人材を育てます。
【その他のコース】			
3	沼南	環境サイエンス	古代米を育てるなどの、体験授業が充実。卒業研究にも取り組みます。
3	沼南	文化コミュニケーション	新聞などを題材に、国際理解や社会問題に取り組みます。

## 県立高校改革推進プラン(令和4年度～13年度)/第2次実施プログラム

実施年度のうち、[令和9年度]の項目が来春の入試に関係します。

### I 【魅力ある県立学校づくりの推進】

【地域社会に関する学びの導入】		【総合学科の設置】		【フレキシブルスクールの設置】	
対象高校	実施年度	対象高校	実施年度	対象高校	実施年度
多古 (普通科・園芸科)	令和9年度 (地域連携協働校の指定)	船橋豊富 (普通科)	令和10年度	沼南 (普通科)	令和10年度
市原 (普通科・園芸科)	令和9年度 (地域連携協働校の指定)	船橋北 (普通科)		沼南高柳 (普通科)	
【水産教育の充実】		【学びの多様化学校(コース制)の設置】		* フレキシブルスクール 定時制の課程と通信制の課程の併置校	
対象高校	実施年度	対象高校	実施年度		
銚子商業 (海洋科)	令和9年度(洋上風力発電に関する学びの導入)	八千代東 (普通科)	令和10年度		
大原 (海洋科学系列)	令和9年度(栽培漁業やマリンレジャーに関する学びの導入)	八千代西 (普通科)			
館山総合 (海洋科)	令和9年度(沿岸漁業に関する学びの導入)				
【工業教育の充実】		【単位制の導入】			
対象高校	実施年度	対象高校	実施年度		
東総工業 (工業に関する学科)	令和9年度 (学科を再構築)	八千代東 (普通科)	令和10年度		
茂原樟陽 (工業に関する学科)	令和9年度 (学科を再構築)	八千代西 (普通科)			
		柏 (普通科・理数科)	令和9年度		
		佐原 (普通科・理数科)	令和9年度		

### II 【県立高校の適正規模・適正配置】

【統合】					
対象高校	実施年度	設置学科と設置系列		使用校舎及び備考	
八千代東 八千代西	令和10年度	普通科		八千代東 ・ 学びの多様化学校(コース制)を設置 ・ 単位制を導入	
船橋豊富 船橋北	令和10年度	総合学科		船橋豊富 ・ 普通科を改編し総合学科を設置	
沼南 沼南高柳	令和10年度	普通科 (定時制の課程・通信制の課程)		沼南高柳 ・ フレキシブルスクールの設置 ・ 昼間二部制定時制の課程(午前部・午後部)を設置するとともに、オンラインに特化した通信制の課程を併置する。	

## 令和8年度千葉県公立高校入試概況

## 【全日制の課程】

## 一般入学者選抜

\* 海外帰国子女、外国人、中国等引揚者子女等の特別入学者選抜も含む。

実施学校・学科数	124校199学科	(昨年度124校199学科)
募集人員	28,880人	(昨年度より840人の減少)
志願者数	32,136人	(昨年度より1,867人減少)
志願の取消し	128人	(昨年度より21人減少)
確定志願者数	32,008人	(昨年度より1,846人減少)
確定志願倍率	1.11倍	(昨年度より0.03ポイント下降)
欠席者	247人	(昨年度より24人減少)
受検者数	31,761人	(昨年度より1,822人減少)
内定者数(合格者数)	27,005人	(昨年度より959人減少)

## 【定時制の課程】

\* 三部制の定時制を含む

## 一般入学者選抜

実施学校・学科数	16校16学科	(昨年度16校16学科)
募集人員	1,237人	(昨年度より40人減少)
確定志願者数	821人	(昨年度より88人増加)
確定志願倍率	0.66倍	(昨年度より0.09ポイント上昇)
受検者数	809人	(昨年度より87人増加)
内定者数(合格者数)	744人	(昨年度より45人増加)

## 【通信制の課程】

## 第一期入学者選抜

募集人員 360人 志願者数 195人 受検者数 190人 内定者数 190人

# 私立高校について

## (1) 私立高校の特色

### ① 教育課程の独自性

- ・進学コース(補習授業、7時間授業の実施)や就職コースの設定/能力別クラスの編制(教科別クラス)
- ・特定教科の授業時数の増加【英語、選択授業、情報教育】
- ・土曜日の授業、宗教教育の実施

### ② 特待生制度の実施

- ・学力、体育技能に優れた生徒に対する授業料や入学金の免除

### ③ 施設、設備面の充実

- ・体育施設やICT(情報教育)施設等の充実

### ④ 高校・大学の一貫教育

- ・大学の付属高校
- ・系統別、特定校への推薦枠の確保

## (2) 私立高校選択のポイント

- ① 受験日を検討。受験日が重ならない場合、何校でも受験可能ですが、体調などを考えて、無理のない受験日程にする必要があります。

### ② 私立高校入試の優先入学制度について

**私立高校の場合はたとえ合格してもその高校へ進学するとはかぎりません。**そこで、私立高校は入学定員を確保するために定員の3~4倍の合格者を発表する傾向にあります。私立高校にとっては、何人入学してくるか分かりにくい併願者よりも、確実に自分の高校に進学してくる生徒をつかみたいと考えています。また最初から「この高校がよい、ここで勉強したい」と考えて入学した生徒と、そうでない生徒とではその後の意欲・態度に大きな差が出てきます。したがって、私立高校の入学制度の中で、第1希望者を他の受験者に比べて優先する制度があることを十分に認識する必要があります。

(当然、全く優先制度のない高校もあります。)

## (3) 入試の形態例

### ① 推薦入試

**単願推薦**・・・中学校(長)の推薦を要し、当該私立高校が第一志望で、合格したら必ず進学することが条件。

**併願推薦**・・・中学校(長)の推薦を要し、当該私立高校は第二志望以下で、他校を受験可能。(入試相談を行う学校もあります。)

※第1希望が公立高校である、当該私立高校が第二希望でなくてはならない、などの条件がある場合があります。

**自己推薦**・・・中学校(長)の推薦は必要ではなく、本人または保護者の責任で行う。

## ②一般入試

**単願入試**・・・「他にも受験はしますが、合格したら必ず入学します。」という受験。

**併願入試**・・・当該私立高校は第二志望以下で、他校を受験可能。

**フリー**・・・受験に制限なし(相談なし)。

※最近では、高校によって様々ですが、「前期」に「推薦」「一般」を同時に行ったり、「推薦」を廃止して「一般」だけにした高校もあります。また、「前期」で募集定員の大半(90%程度)を確保したりしている高校もあります。フリー受験以外は、入試相談(事前申込)が必要となる高校が多いのが特徴です。

## (4)私立高校の入学試験について

① 学区 ・通学可能である限り、学区の制限はありません。

(遠隔地については寮を設けている学校もあります)

② 学力検査 ・多くの学校が3教科(国語、数学、英語)で実施します。

・5教科実施(国語、社会、数学、理科、英語)の学校も増えてきています。

・高校ごとに試験問題に傾向があるので、事前に研究しておくといでしょう。

③ 調査書(中学校で作成します。公立様式の場合もあれば、高校独自のものもあります。)

・欠席、遅刻、早退等の日数を明記する高校もあります。

・1~2年の学業成績の記載も求められる学校が増えています。

④ 面接(ほとんどの学校で実施され、重視されています)

・生徒本人のみ、保護者同伴、グループ面接など、学校によって様々です。

・願書取得時や提出時、また、学校説明会参加時にチェックされる場合もあります。(頭髪、服装、礼儀、態度、言葉遣いなど)

⑤ 合格発表 学校掲示、郵送(本人/学校宛)、ホームページなど、事前に確認する必要があります。

⑥ 入学手続き ・第1希望(単願、推薦)の合格の場合は**必ず手続きをする**。

・第2希望(併願)の場合は**公立高校の合格発表まで延納が可能**です。

(一時金が必要な場合があります)

※学校によって様々ですので、生徒募集要項で確認してください。

⑦ 前期試験、推薦入試

ア 願書受付・・・・・・・・12月下旬~1月下旬

イ 試験日・・・・・・・・1月中旬~2月上旬

・一般入試より先に行われます。

・書類審査、面接、作文などで合否を判定します。

・学力試験や適性検査を実施するところもあります。(内定後に一般入試を受ける学校もあり)

・**単願推薦、第一希望推薦の場合は、合格したら必ず入学しなくてはなりません。**

⑧ 後期試験、一般入試

ア 願書受付……………1月中旬～2月上旬

イ 試験日……………1月下旬～2月中旬

ウ 出願時の提出書類…願書、受験料、写真、調査書、その他

(推薦書、延納願いなど)

※ 出願校の「募集要項」をよく読み、期日を守って書類を作成し、手続きしてください。

※ 願書や所定の調査書は遅くとも11月中に揃えてください。

(入試要項のコピー及び所定の調査書は、11月中に必ず学級担任の先生に提出してください)

※ 願書用の証明写真はスピード写真は避け、写真店で撮影してください。その際のデータまたはネガを保管しておいてください。

※ インターネットによる出願が主流になっています。詳細については、次回の進路保護者会で説明します。

## サポート校について

(1) サポート校とは

通信制高校に通う生徒を支援するために設けられた学校や教室を指します。大きな駅など、交通の便が良い立地にあることが多く、講師やカウンセラーが所属しています。通信制高校と同時に入学することが多いです。

(2) 高校卒業資格について

通信制高校では、高卒資格の取得ができますが、サポート校だけでは高卒資格は取得できません。サポート校に通いながら、高卒資格取得を目指すためには、全日制高校や定時制高校、通信制高校に進学し、同時にサポート校も活用するという形になります。

## 高等学校以外の進路選択

(1) 高等専門学校

高等専門学校(以下、高専)は、大学教育とは異なり、社会が必要とする技術者を養成するため、中学校の卒業生を受け入れ、5年間(商船は5年半)の一貫教育を行います。

千葉県には、国立木更津工業高等専門学校があり、都内にある都立産業高等専門学校は、都立ではありませんが、近隣県からも受験していくことは可能です。

(2) 高等専修学校

高等専修学校は、専修学校のうち、中学校卒業生を対象にした高等課程のことをいいます。職業や実生活に役立つ特色ある教育を行っています。

千葉県には、私立市原看護専門学校、私立中央自動車大学校、私立野田鎌田学園高等専修学校などがあります。

### (3) 高等技術専門校

主として、中学校・高等学校を卒業して、これから就職しようとする人や、転職して新しい職に就こうとする人が、就職に必要な技能や知識を身につけて、優秀な技能者として、豊かな生活を送るための、いろいろな訓練を実施しています。

千葉県には、船橋テクノスクール、市原テクノスクール、我孫子テクノスクール、東金テクノスクール、旭テクノスクール、障害者テクノスクールなどがあります。

### (4) 就職

縁故や職業安定所(ハローワーク)等を通じて就職先を探します。希望が決まれば、担当者を通じて連絡をとり、実際に職場見学に行き、説明・面接を受けます。「働く」ということについて、自分はどの程度の熱意をもっているかを、自分自身で自問してみることが肝要です。「勉強が嫌いだから」や「行くところがないから仕方なく働く」というのでは、職場にも失礼ですし、当然長続きもしません。「義務教育を修了したので、自分はこの道で生きていく」、「社会の一員として働いていく」という強い決意が必要です。

## 3年生に努力してほしいこと

- 自分の進路・生き方について真剣に考えよう。
- 自分の進路先を選択・決定していく過程の中で自立心を養おう。
- 目標を実現するためにがんばる力、努力する態度を身につけよう。
- 勉強とはどのようなものか、なぜするのかを考え、将来につながる学力をつけよう。
- 自分の決めたことを実現していく強い意志を持ち、最後まであきらめずに頑張ろう。
- 同じ立場の友達と共に向上しよう。
- 自分の進路を、自分で調べ、考え、決断しよう。

## 日常生活の心がけ

- ☆自らを律することのできる人に
  - すべての授業を大切に
    - ・時間を守る ・整理整頓 ・忘れ物
    - ・提出物 ・私語 ・着席
  - 自分の役割に責任を持つ
    - ・清掃の取り組み ・係活動 ・当番活動
  - 学校行事に積極的に取り組む
    - ・集会の態度 (・合唱) ・移動時の私語
  - 基本的なマナー ・身だしなみ ・あいさつ ・返事 ・言葉遣い ・まわりのことを考えた行動 ・暴れない ・下駄箱
  - ・ルールを守る ・見て見ぬふりをしない

## 保護者の方へのお願い

- (1) 進路決定は本人の決意 ~ 自分で決めた希望進路だからこそ、最善を尽くすことができる ~
- (2) 正しい情報収集 ~ 何が一番大切なのか ~
- (3) 子どもの気持ちを理解してのアドバイス ~ 子どもの良い面、考え方、気持ちを考える ~
- (4) 大きな心で、長い目で ~ 進路選択の経験者である保護者は平常心で ~

**= 大切なのは日々の学校生活・家庭生活です =**

**進路学習キーワード[挨拶・返事・身だしなみ・言葉遣い]**

**3学年目標[志学・自律=自立・感謝]**